

◎7～8月のスケジュール
*7/18(火):前期末試験開始
*7/29(土):前期末試験終了
*7/31(月):夏季休暇開始

平成7年(1995年)7月1日発行



21世紀対応の学園リニューアル成る 緑に映える研究・実習空間

キャンパス新世紀



写真上:本館(一号・三号)中庭にお目見えした
インテリジェントビルふうの情報工学科実験研究
棟。左:体育館脇に登場した建築学科実験研究棟。

二十一世紀まで、あと五年を残すのみだが、本学では、このほど来るべき飛躍の時代に対応すべく、教育環境を整備・充実した。

第一は、建築学科実験研究棟の新築。第二は、この四月より新に新設をみた情報工学科の実験研究棟の新築。さらに、学科増設にともなう学生増に対応した第二食堂の建設である。

そればかりでは、ない。併せて一号館の一、二階ロビーや、そこから二号館や三号館に至る回廊のリニューアルなども成り、キャンパス環境は、従前と比べて見違えるように、装いを新にした。

人間は、環境をつくるが、また、環境に育まれる。したがって、そんな新たな空間で勉学に取り組むことは、気分も昂まろうし、ひいては新時代にふさわしい独創的研究も生まれよう。ちなみに、これら一連の空間デザインは、建築学科の村口昌之教授の手になるものである。(この項、五、六面につづく)

去る五月二十一日(日)午後一時より平成七年度後援会総会が開催された。

当日の出席会員は、委任状を含めて二二六二名。学友会館ホールは熱気に包まれた。

総会は、議長に北嶋弘一氏(4S・京都)を選出して進行。

平成六年度事業報告、同年度決算報告、同監査報告並びに平成七年度事業計画案、同年度予算案が各役員より報告、提案され、慎重審議の結果、いずれも原案どおり満場拍手により可決した。

次に、理事銓衡の議案審議に移り、大塚敬右銓衡委員長(卒E・埼玉)より銓衡結果が報告され、理事および監事候補者(理事一七名・幹事二名、内重任七十六名・新任四十三名)全員が満場拍手により承認された。

続いて、役員選出が行なわれ、金城英三氏(3S・沖縄)が会長に選出され、以下七年度新体制が全員拍手により承認された。

全ての議案審議を終え、十分間の休憩を挟んだのち、山梨県支部長より入学記念として「吉野桜」寄贈の目録が大学側に贈呈され、午後二時四十分、総会は盛會裡に終了した。

この後、一般会員は学内見学、新旧理事は理事会へと移り、新任



総会終了後に学内を参観する出席者

金城英三氏が新会長に就任!!

後援会平成七年度定期総会



本学の大川学長(右)及び李徳煥・華中理工大副校長

華中理工大副校長 来訪講演

本学と十余年の交流をもつ中国・華中理工大学(武漢市)の李徳煥副校長が去る五月中旬来訪。教務部関係者、ならびに工業教育研究所員らを含め、「中国教育事業の新発展」というテーマで、特別講演を行った。

講演内容は、おおむね左記の通り。わが国の大学改革同様、二十一世紀という新しい時代に即した人材を、如何に育んで行くかという当面の課題が、その行間から読み取れよう。

①教育発展の基盤の確立
西暦二〇〇〇年までに、地方区域における適齢人口の九〇%に九年義務教育を普及する。

②大学教育の重視

重点大学は中央が直接管理。部分大学は地方政府の管理下におき、さらに大手企業も大学管理に参与する。また学科の重複や費用軽減のため、いくつかの大学間で聯合教育を施す。

以上が、李副校長の説き明かした教育改革の骨子。

点建設「211工程」。(211工程というのは、二十一世紀までに国内の百箇所の大学を全面改善する作業を言う)

具体的方策としては、全国の大学間にコンピュータネットワークを構築し、教育資源(精密測定機器センターや図書館資料センター)を共同享有する。

また各大学に重点学科を建設。さらに教育条件を全面的に改善する。

③大学の体制改革と聯合教育の実施。

世界デパート探見

アメリカの国立研究所の多くは、設立目的がその当時最高機密の原子力研究であつたから、辺りな地域に建設された。そのため、交通は不便だが、周辺の風光が美しいところが多い。

ニューヨーク州のブルクヘブン国立研究所も、そのような場所にある。晩秋のロングアイランドは、豊かに広がる木立の色彩が鮮やかで、時差でたまった眠気がさめるほどであった。

午後五時過ぎまで続く会議の後、研究所のゲストハウスに戻る毎日、退屈であろうと気遣った当地の研究者が、十人ほどの会議メンバーをホームパーティーに招いてくれた。

広い居間のあちこちで、客たちは夜更けの静寂に遠慮して、ささめくようにに談笑していた。すると、窓の外ですさまじいうなり声が沸き上がった。

ヤンに捧げる



伊原 征治郎教授 (システム工学科)

驚愕して腰を浮かせた客たちは、野良猫のラブコールとわかつて、笑いながら話に戻ったのだが、壮絶な合唱は延々と続き、次第に会話は途切れがちになった。

鳴に転調した途端、全員の静寂が訪れた。

ヤンが居間に戻ってきたとき、だれかが「うまくやったね」というようなことをつぶやいた。するとヤンは、「私はラップランドで育ったから」と言った。

てきた。人が操作して使っていた初期の技術が、経済成長と技術進歩の循環作用で複雑に進化を遂げ、技術が人を組み込んで操作の補助に使う逆転が生じた。そのなると、技術の安全についての責任の所在は、あいまいである。

長い間忘れていたヤンのことを思い出したのは、昨年、テレビでラップランドの生活が報道された時である。番組は、チェルノブイリ原子力発電所の事故で放出された放射能が、ラップランドの草原を汚染して、トナカイの肉にも放射能が検出され、放牧者は失業に至ったことを伝えている。

事故の思いがけない影響に驚かされ、技術の安全性を考えたが、なかなか深刻な問題であった。人間がいれば本能のように技術を開発して生活に採り入れているうちに、人間と技術の関係は次第に変わ

で、原子力発電所による事故のリスクは問題にならないほど小さい、という主旨であった。しかしこの報告は、スリーマイルアイランドやチェルノブイリの事故以来、引用されることがない。確率を比較して選択の合理性を説明するのが無理であることは、自動車事故の死者数が原子炉事故の死者数よりもはるかに多いのに、原子力を忌避する人々も自動車は拒否しないことに端的に表れている。この事実は、選択の自由がある場合には、ある程度までリスクを許容する人間心理として説明される。

平成7年度の科学研究費補助金が決まった。この科学研究費は、我が国の学術振興に寄与するため、人文・社会科学から自然科学まであらゆる分野における優れた学術研究を格段に発展させることを目的とする国の研究助成費。

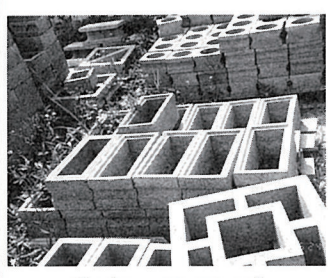
平成7年度科学研究費補助金
「沖縄地方組織造建築物に関する学術調査研究」など

9 研究



沖縄独特のヴェランダに花ブロックをあしらった民家

（建築技術センター・講師）佐藤勝行（建築・教育技術員）の計7名が分担者として参加する「沖縄地方組織造建築物に関する学術調査研究」。本研究の目的は、沖縄地方の組織造建築物について戦後50年の歴史の変遷を考慮し、(1)材料(2)構造(3)施工(4)計画(5)環境の各事項の資料収集と現地調査により、建築学の総合的分野により、その現状と特徴を明確にし、歴史的意義を確立することにある。



花ブロックのアップ

④建築学科・黒津高行助教授による「ネパールのパタン王宮における設計モジュールの研究（チョク建築を中心に）」
本研究も平成6年度からの継続分。ネパールの伝統的な建築を代表するパタン王宮を例に、現地調査による「複素微分方程式の有理型関数解について」
②電気実験研究センター・飯塚完司講師による「MBE用ガリウム砒素基板の砒素分子線をを用いない表面クリーニング法の開発」
①共通系・石崎克也講師による「複素微分方程式の有理型関数解について」
②電気実験研究センター・飯塚完司講師による「MBE用ガリウム砒素基板の砒素分子線をを用いない表面クリーニング法の開発」
③システム工学科・三宅正二郎教授による「走査型プローブ顕微鏡による層状結晶材料の原子オーダーの摩擦研究」
本研究の推進は、マイクロマシン、通信衛生用機

華中理工大学のゲストハウス内に
本学の《日中友好親善ホール》完成

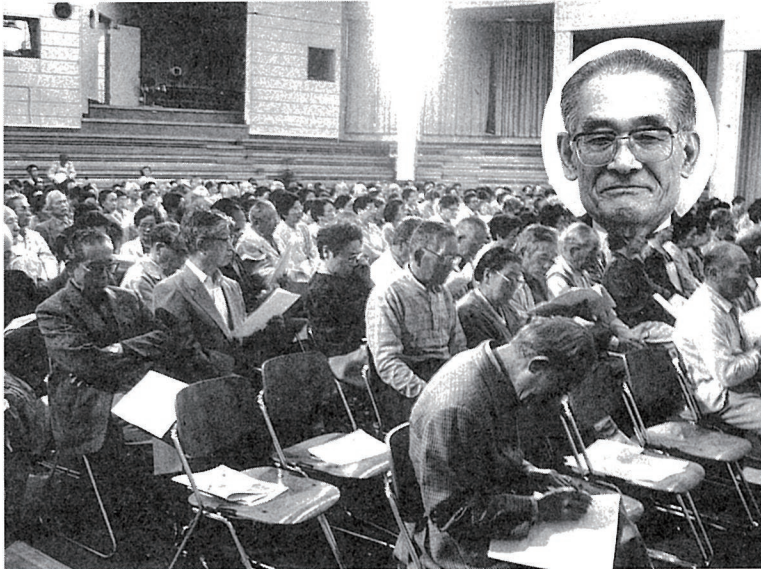
昨年9月、中国の武漢市にある華中理工大学で開催された「太陽エネルギー応用」に関するシンポジウム（本学主催）報告にちなんで記したが、この6月中旬、同大学内に、わが日本工業大学の《日中友好親善ホール》が、めでたく完成した。

同ホールは、今後両大学の学術交流などに利用されるが、その成果が大いに期待される。なお開所式には、大川学長夫妻が出席した。収容人員は、230席余りである。



北後教授が宮代町の生涯学習機関で講演

身近な地震対策で的確な助言



説得力のある話にメモを取る姿も。(円内は北後寿教授)

さる五月十八日、建築学科の北後教授が、宮代町の生涯学習の集いである「へ寿大学」で、「近年における世界の地震災害を考える」というテーマで講演した。町役場の一角にあるホールに集った受講者は、およそ四百人。一月十八日に襲った、あの阪神大震災の惨状が未だ記憶に生々しいせいか、二時間にわたる北後教授の話に、みな熱心に耳を傾けた。

話、まず神戸の被害状況から説き起こし、次に専門の建築構造、さらにこの四半世紀に発生した地震の地域性、神戸地震の被害を増大させた軟弱地盤の問題、身近な地震対策に及ぶ、まさに「地震総合学」とでもいうべき精緻を尽くしたものであった。

とりわけ、長年にわたる研究と調査に基づいた「身近な地震対策には常識こそ必要である」という結びは、柱・壁の強化や接合部の一体化、さらにはバランスのよい構造材の配置などに及び、その具体的かつ貴重なアドヴァイスに、受講者の多くが熱心にメモをとる姿も垣間見られた。

既に「学内報」で発表されているように、本学でも「日本工業大学生涯学習センター」が設置された。目的は、公開講座、講演会など公開講座に準ずる事業の推進にあるが、専門家を数多く擁する本学としては、今後、その力をもって広く社会に寄与する局面が拡大しよう。

とまれ、北後教授の講演に寄せられた一般市民の強いまなざしは、生涯学習というトピックス(場)の意味合いや期待感を、存分に物語つて余りあるものだった。開かれた大学の予兆だ。

第一回	出願期間	平成7年8月21日(月)～9月30日(土)
	面接	平成7年9月12日(火) [大 学] 9月13日(水) [大学・仙台] 9月17日(日) [長 岡] 9月18日(月) [名古屋・岡山] 9月19日(火) [松本・静岡・大阪] 10月8日(日) [大 学]
	合格発表日	平成7年10月20日(金)

※面接において、地方会場(仙台・長岡・松本・静岡・名古屋・大阪・岡山)および9月12日・13日の大学会場を希望する場合は、9月4日(火)までに出席してください。

第二回	出願期間	平成7年11月27日(月)～12月4日(月)
	面接	平成7年12月9日(土) [大 学]
	合格発表日	平成7年12月15日(金)

二十代が五八・六〇%、三十代が五九・三〇%、四十代が六四・二〇%、五十代以上が七〇・一〇%、平均すると六三・三〇%。皆さんは、この年代とパーセントの数値を見て、何を予測し、どんなことを想像されますか。

これは、企業人五〇〇〇人に「リフレッシュ教育として、どのレベルの工学内容を期待しますか」の質問に対して、一五七二人からの回答を学部・修士・博士・その他に分類し、その中で最も期待の高かった、修士レベルに期待する人の年齢とその割合を示した(他日本工業教育協会・平成四年十二月 実施)。

また、人文社会科学系を専門とする回答者の多くが工学のリフレッシュ教育に高い期待を寄せていることがわかって、十三年前から工業高校の先生方を対象に「マ

奇心が旺盛で、たくましく生きる資質と能力を有する人材の育成である。もう一つは、大学等がリフレッシュ教育等の社会的な要請・期待に対して応えていくことであると考えている。

母親が養育しなくても、自分で生きていけるだけの能力を持つ古い脳で動物的なたくましさを発揮して強く生きようと提言している。一般に、脳は「生の営み」の立場から三つに分けられている。

古い脳を十分に生かした技術者として町工場から「世界のホンダ」に育てあげた天才技術者本田宗一郎がよくあげられている。それは、動物的な行動力、直感力、ひらめきなどのすぐさを感じさせる。この源泉にあるものは、好きなことをとことん追求し、まず、ものをつくることからスタートしている。ここにあると確信している。

誰かがものをつくる時、どんな簡単なものでも、そこには創意・工夫と試行錯誤があり、その過程には驚き、疑問、困惑、矛盾が生まれる。これらの一つでも解決して完成したときの喜びは文章や言葉で表わすことは不可能である。言葉で表わすことのできない喜びの感情が古い脳である。試行錯誤のものがづくりの体験が時代の変化に強い頭と腕をつくってくれる。

座 標 2

技術の変化に強い頭と腕の育成



木村 寛治教授
日本工業大学
工業教育研究所

は、工学に関する基礎的な内容を身に付けておかなければ、産業や企業のダイナミックな進展が期待できない時代になりつつあることを示している。

このような時代的な要請の中で、二つの教育課題が潜在していると思う。その一つは、何歳になっても好

シニングセンター「技術」などのリフレッシュ教育を行ってきいていることは特筆すべきことであろう。

ここでは、まず、「好奇心が旺盛で、たくましく生きる力(脳)」の源泉から述べたいと思う。

前号で「恐竜の脳で生きる」本を紹介した。この本は乳類も持っている脳幹・脊



写真上：学生部長の小林勉教授の音頭で乾杯をする留学生たち。下：国籍・学科・学年を越えての歓談風景。

平成8年度 推薦入学について



日本工業大学 教務課入試係
TEL 0480-33-7507
FAX 0480-33-7527

【推薦A方式】

過去の入学実績(入学後の成績を重視)を勘案して推薦依頼生徒数を決定し、優秀な生徒諸君をご推薦いただく指定校制(学科指定)です。

出願期間	平成7年10月2日(月)～10月7日(土)
合格発表日	平成7年10月20日(金)

【推薦B方式】

成績概評B以上を前提条件とし、特長・特技をもった生徒諸君を、広く推薦していただきます。

第一回	出願期間	平成7年8月21日(月)～9月30日(土)
	面接	平成7年9月12日(火) [大 学] 9月13日(水) [大学・仙台] 9月17日(日) [長 岡] 9月18日(月) [名古屋・岡山] 9月19日(火) [松本・静岡・大阪] 10月8日(日) [大 学]
	合格発表日	平成7年10月20日(金)

※面接において、地方会場(仙台・長岡・松本・静岡・名古屋・大阪・岡山)および9月12日・13日の大学会場を希望する場合は、9月4日(火)までに出席してください。

第二回	出願期間	平成7年11月27日(月)～12月4日(月)
	面接	平成7年12月9日(土) [大 学]
	合格発表日	平成7年12月15日(金)

空間創造

キャンパス新世紀

最上階の両端が船のへ先のように鋭角にあしらわれ新たな時代への船出をほうふつさせる《建築学科実験研究棟》。また、高度情報社会のイメージにふさわしいインテリジェントビル風の《情報工学実験研究棟》。さらに図書館左側の本立のなかにお目見えしたパスタ類の味覚が楽しめるイタリアモダン感覚いっぱい《第二食堂》……。学園内のこれら一連の施設は、この四月から六月にかけて、本学が二十一世紀の勉学の場にふさわしいよう総力を傾けて具現化

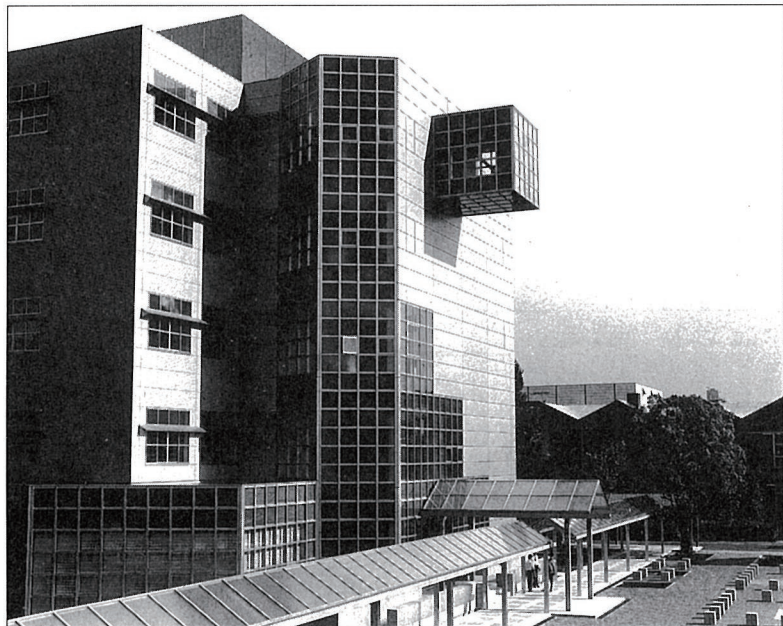
調和

インテリジェントビル風の超近代的なイメージと、自然環境との調和を図った設計コンセプト。そのバランスは、第一面のカラー写真を参照。



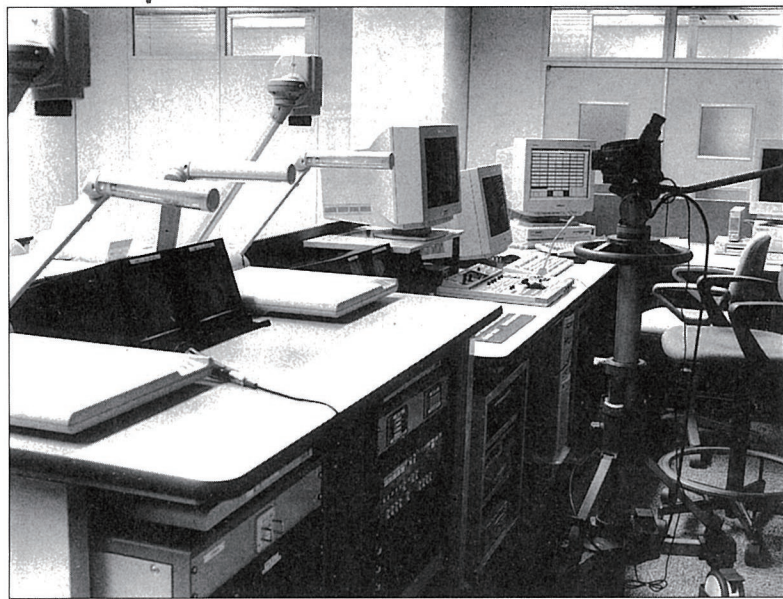
情報工学科実験研究棟

マルチメディア社会に対応した最先端教育装置が満杯



癒し

5階から中庭方向へと突き出した展望空間。ここは疲れた頭を癒してくれる格好な場所。



先端

教師陣レクチャー・スペース。机上の学生個々のコンピュータにオンラインして双方向コミュニケーションを行ったり、またビデオカメラで即座に資料をモニタリングして懇切丁寧な講義を授けることのできる最先端教育装置で、本学独自の設計である。



清心

本館(1号館)から図書館に向かうキャンパスの中庭。情報工学科実験研究棟は、その左手に立つが、噴水が施設に向かう心を洗い清める。

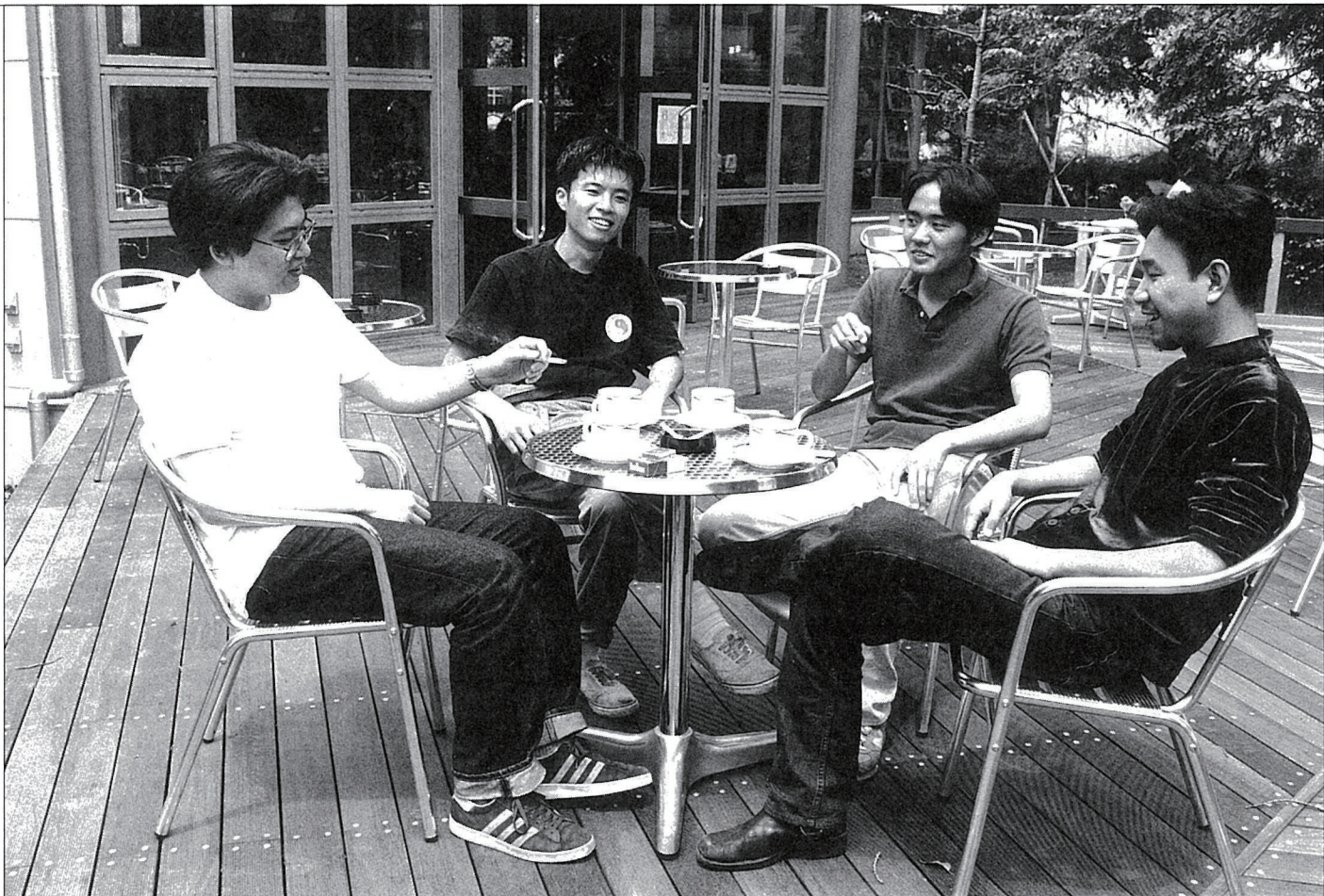
遊心

学生が自由に各種のハード・ソフトを駆使して創造心を育む楽しい場所。



日本工業大学の

した空間創造である。
それだけではない。これらの施設環境は、本館からエネルギーラインを収納した屋根付の回廊で相互に結ばれ、本学が目指す工学という「知」のネットワークもシンボライズされている。あとはこれらの素晴らしい装置に、如何に新時代を切り拓けるような秀れた英知を築き上げて行けるかどうかだ。そしてその挑戦は、既にはじまっている。
(写真Ⅱ企画室・櫻井)



談論

一杯のコーヒーが創造心を触発する級友やクラブ活動仲間との語りい……。そんな格好な場が第2食堂裏正面に設けられたテラス空間。

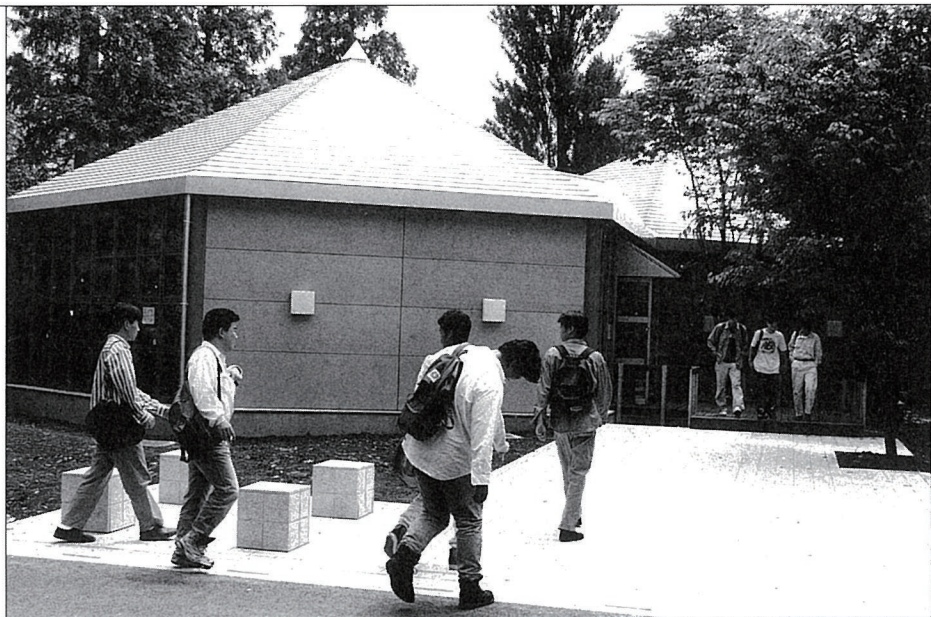


味覚

メニューは、スパゲッティなどパスタ類が中心で、安くて、またおいしい味覚が楽しめる。

洗練

ミラノはデザインの一つのメッカだが、食堂内は、「ミラノ感覚」でいっぱい。

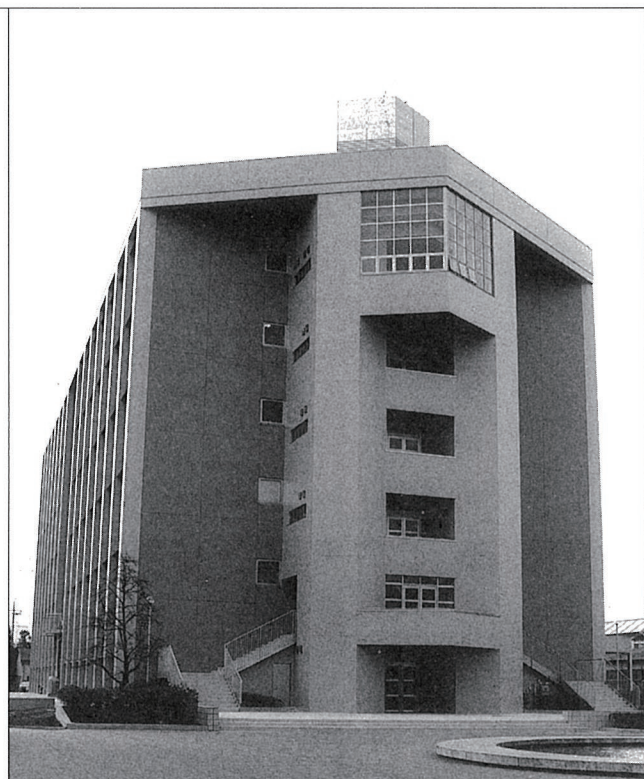


第2食堂

気分は、ミラノ感覚……。晴れた日には、テラスでの“談論風発”を楽しもう!!

堂々

「威風堂々」という言葉があるが、この構えには、そんな確りした安定性が表徴されている。



象徴

「温故知新」を標ぼうする本学の精神を表すギリシャと法隆寺の円柱。



学び

創造心と総合力を育む快適な設計・製図空間。



建築学科 実験研究棟

「ギリシャ神殿」と「法隆寺」のエンタシスに学びの精神を表徴するニュースペース。



■建築学科には女子が多いせいか、応援も明るい



第28回体育祭 盛大に開催!!

建築学科が優勝



▶選手宣誓を行う望月誠君(建築学科)

五月二十六日、前後の雨もからりと晴れ渡った絶好の運動日和のもと、恒例の一年生を主体とする体育祭が、開催された。学科別で競った賞杯は、前年度に次いで建築学科が獲得。ともあれ、終日グラウンドを駆け回っている皆の表情には、いわゆる「五月病」など無縁の元気が感じられた。



われらが友よ 学園生活を明るく元気に!

開会式の学長あいさつに次いで角田学生自治会委員長は、「昨今は何を考えているのか分からない学生もいるが、本日ここに集った表情のように、明るく元気に今後の学園生活を送ろう」と、一年生に呼びかけた。そう「日工大生は元気で明るい」との評価を、ぜひものしたいものだ。

▶開会式でメッセージを贈る角田学生自治会委員長



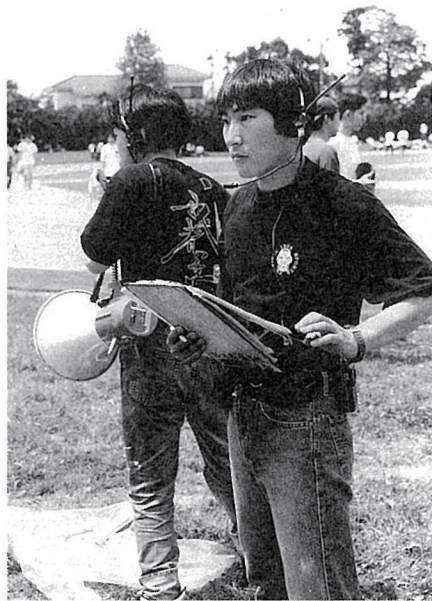
翔んだ1日

珍プレイ・珍ゲームに抱腹絶倒!!

※左右のプレイ中の写真は、アルバム委員会撮影



■留学生別科(日本語研修)の学生も熱心に観戦



■裏方さんたちも頑張りました

台湾への高等教育機関視察団

専科学校2校と学術文化教育協力協定

報告 教務課主任 松本勇一郎



商苑工商専科学校において協定書を取り交わす廣瀬教務部長(左)、理事:余陳月瑛氏(中)、校長:廖肇正氏(右)

六月五日から一〇日までの六日間、夏の初めの台湾を南都高雄から首都台北までほぼ縦断してきた。一行は廣瀬治男教務部長初め、酒井茂紀教授、伊藤庸一教授、石川博章教授、横澤康夫教授、鈴木一良助教授、それに筆者の総勢七名。目的は専科学校文化教育協力協定を締結することと、台湾の高等教育機関の視察を通して国際文化交流を深めることにあった。

成という観点からみれば今回の台湾訪問は成功であったと言える。今回協定を締結した二校のうちのひとつ、「高苑工商専科学校」は認可以来六年という新しい学校だが、校舎やキャンパスの充実ぶりは驚異的なほどである。通訳をしてくれた同校の教員である二人の女性のうち一人は日本人であった。台湾語を教えているということだが彼の地で、同胞の応対を受けるとは思ってもいなかった。

もう一方の「南台工商専科学校」は少し歴史が古く一九六五年の創立。本学の日本語別科台湾事務所長張氏によれば工専としては台湾で二番目の優秀校という。校舎は赤い煉瓦造りの五階建てが中庭を囲み、ペランダには緑の植栽が品良く施されて大変に美しい。同行の伊藤教授が台湾における建築配置のひとつの典型であると教えてくれた。写真は協定書を取り交わしの情景である。「南台工専」とのそれは翌日の現地の朝刊二紙で報道されていた。これを契機として更なる活発な交流が期待される。紙幅の関係で他の訪問校の詳しい紹介はできないので名のみ掲げる。高英高級工商職業学校、「国立雲林技術大学」、「国立交通大学」、「台北技術学院」。

末尾であるが、今回の台湾訪問に関してお力添えを戴いた関係各位に深謝いたします。

人間「人柄がいい」というのは、なにより財産だが、ゼミの窪田助教が太鼓判を押すだけあって、天羽君は、気持ちの安らぐ快適な好青年である。しかしながら、かれ自身、つい先日まで、気持ちのふさぎ込む日々がつづいていた。というのは、生まれ育った神戸が、あの大地震で壊滅的な被害を受けたからだ。

さいわい兵庫区にある実家は、住宅の密集地帯から離れた山側だったため、被害を免れたが、地元在住の友人たちの家は、倒壊もしくは焼失の憂き目に遭った。それゆえ、こころの根のやさい天羽君は、自分の家のことのように「茫然自失の状態に追い込まれてしまっていた」のだ。

が、いまでは復興の槌音と呼応するように、かれの心は、住居の密集地帯から離れた山側だったため、被害を免れたが、地元在住の友人たちの家は、倒壊もしくは焼失の憂き目に遭った。それゆえ、こころの根のやさい天羽君は、自分の家のことのように「茫然自失の状態に追い込まれてしまっていた」のだ。

が、いまでは復興の槌音と呼応するように、かれの心は、住居の密集地帯から離れた山側だったため、被害を免れたが、地元在住の友人たちの家は、倒壊もしくは焼失の憂き目に遭った。それゆえ、こころの根のやさい天羽君は、自分の家のことのように「茫然自失の状態に追い込まれてしまっていた」のだ。

NOW!! 知的・分散システムの実現に向けて



坂本康治教授 (情報工学科)

従来の多くの機械が人間の力学的能力の拡張を目的としていたのに対し、計算機は知的能力の拡張を図ろうとするものである。しかしながら、実際に処理を実行する計算機本体(CPU)は、とうてい知的と言えないような単純な動作を繰り返す機械に過ぎない。この単純な、したがって明確に定義可能な動作を一まとまりの知的な機能に昇華させるのは人間(プログラム)である。与えられた問題の解決を疑問の余地のない動作にまで分解し、それらを有る限りの組み合わせで(うるさいことを言えば、さらに有限回の動作で)終了が保証されている必要がある(をアルゴリズムといふ)これを計算機が理解できる言語に変換したものをプログラムという。このように計算機の知的部分は人間によって与えられ、メモリ上に集積される。

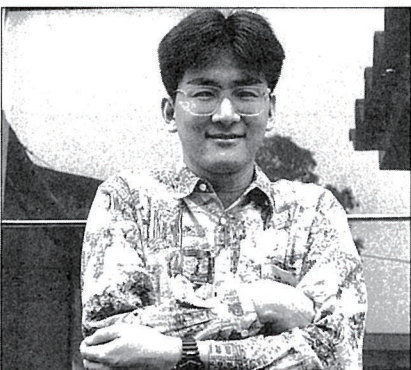
ハードウェアの発展はCPUやメモリの高速化と大容量化をもたらし、より知的なプログラムの格納を可能にした。しかしながら、ハードウェアとは異なり、プログラムの開発の自動化は、とりが不可欠である。この機能を担うのがネットワークである。近年のネットワークに対する認識の高まりに伴うユーザの増加や、計算機の高性能化に伴う通信データの大容量化により、ネットワークの高速化に対する要求は、道路に見るのとが異なる。一車線二車線への変更地点と二車線一車線への変更の手前では、渋滞となることが多い。これは、衝突を避けながらの合流に手間がかかるためである。このような手間をオーバーヘッドという。この例では並列化の際のオーバーヘッドは無視できるが、ネットワークは無視できない。

多重バス・ネットワークでは、伝送する情報の一塊(すなわち、パケット)を等分割して全ての伝送路に同時に流し込む方法が可能である。前者を並列型転送、後者を多重型転送と呼ぶ。これまでの研究で軽負荷時には並列型が、重負荷時には多重型が優位になることを明らかにした。今後は、これらの転送形態を統合した適応型ネットワークについて研究を行う予定である。

当研究室における卒業研究のテーマは、ネットワーククリトリアル解析、交通流の分離や移動体間通信による事故率低減の効果、代替により隠れていた要求内容の推測(GA)、フuzzy論的ゲームの理論的研究、環境問題や食糧問題に対するゲーム論的アプローチ、ニューラルネットワークによる経路選択、である。

当研究室は卒研による研究内容の拡張に伴い、名称を「情報アーキテクチャ研究室」に変更する予定です。……一九四八年生まれ、一九七一年茨城大学卒業、九四年まで電子技術総合研究所にて、メモリシステム、VLSICA D、三次元アーキテクチャ、分散システムの研究に従事、八五年から一年間フランス国立情報並びに自動化研究所客員研究員。九四年より本学教授。工学博士(九州大学)。

STUDENT face '95



E9 設計製図研究棟 MACHINE DESIGN & DRAW (機械工学科 4年) 天羽 寿芳 君

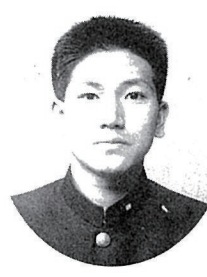
初任給から賞状に寄付

江東の佐藤さんが12万円

苦学時代の奨学金に感謝込め

「カネン」に「カネン」を寄付

今春卒業の佐藤勝久さんが育英会に恩返しに寄付



この六月五日付けの読売新聞(東京都内版)紙上で、われわれ日本工業大学関係者の気分を、ぱっと明るくしてくれるニュースが、掲載された。それは、今春、本学建築学

の教育学部に通う妹の四人。それゆえ父親としては、長男のかれに大きな期待をもつのは、ごく自然な流れと言ってよい。従って、高校の先生と父親の願いが進学を決心させた、というのが、より正確なところであろう。天羽君は、いまは日工大に入った幸を、心底かみしめているようだ。

「とにかく実験・実習の設備がいい。それにゼミの窪田先生なんかも、はじめは堅いイメージでしたが、酒席などでの話はとても面白いし、親身に指導してくれますから……」

さて、そんな天羽君も来年は卒業の身柄。が、直ぐには神戸に帰らず、首都圏の企業に勤めて広く世間知を学ぶ積もり、だという。

「それに、クラブ仲間など、こちらにいい友達がたくさん出来ました。だから休みの日には、それらの友達と会って話をしたい」

紙幅が尽きたが、かれの信条は「素直」「謙虚」「懸命」の三つである。(鶴)

システム工学科・鈴木清教授の手になる本書は、既存のあまたの工学書の殻を破る好著だ。誤解を恐れずにいえば、工学としての文科の技術に満ち溢れている、とても形容できる楽しく、かつ理解に届きやすい本である。

BOOK END

理解し易い
軽妙洒脱な
珠玉の工学書



「加工技術開発の舞台裏」
プライマリー社刊
鈴木 清・著
(システム工学科教授)

「金属繊維の製造法」「ツイン電極放電ドレッシング」など、これまで取り組まれてきた数々の研究のエッセンスが、ざらり紹介されている。

長い、引いておく。「何でも舞台裏を披露することは、それなりに確信もあり、技術に対する信念を持ちあわせていなくては到底できるものではない(中略)」。S氏は、その舞台裏を素人にも判りやすく、しかも軽妙洒脱なタッチでエッセイ風に紹介している。元来、工学に携わる研究者やエンジニアという者は、難しきものなことを殊更難し

さらに言い添えれば、本書を親しみやすくしている仕掛けに、随所にまぶした「コーヒー・ブレイク」コーナーの設置がある。そして、それが無類に面白く、かつタメになる。評者は、単行本の編集も数多く手掛けたが、このアイデアには、正直脱帽の思いである。

(編集子)

近事片々

ここぞしを果たして「故郷に錦を飾る」のは、多くの向きの本懐だが、建築学科出身の小野瀬浩伸さん(平成四年卒業)の場合、このほど母校に錦を飾る幸を得た。というのは、この四月に落成をみた「建築学科実験研究棟」の建設スタッフの一員として、立ち働くことができたからだ。

小野瀬さんは、いま鹿島建設(建設総事業本部)に在籍。おもに現場管理や見積り業務などに携わっているが、入社試験に際して、残念ながら同社から本学に引き合いはなかった。

「僕は栃木県の真岡工業高コンで、ばりばり仕事をし

成ったものの、本社勤めはわずかな期間。現場経験を数多く必要とする建築エンジニアの卵としては当然ながら、仙台支店を皮切りに、秋田、所沢の工事現場を転々と渡り歩いた。

しかし、「石の上にも三年」の体験をもつながら、まだまだ勉強しなければならぬ事は、山ほどある。うだ。そして、日工大の後輩たちには、こう諭す。「学生時代に、もっと電気や機械のことも学んでおけばよかったというのが、今の心境。つまり専門知識は無論だが、世の中、幅広い知識のあるなしが勝負の分かれ目というところに気づいた。だから、ときに学科の枠を越えて境界領域のことも、勉強してほしい」。

そして、四度目の本学の現場を去るに当たっての思いの丈は、「環境は、僕らの時代と比べてうらやましいくらいに整った。だから後は、この施設を存分に活かして力を養ってほしい」という事だった。

「たまたま、さらば開かれん」という言葉がありますが、僕はそれを地でやったわけ。だって一生に一回の問題を、与えられた枠組みのみでやり過ごすのは、何とも馬鹿々々しい

OBサロン



「積極果敢」に生きる
小野瀬浩伸さん
(鹿島建設・建設総事業本部)

校の出身ですが、高校でも建築科に学びましたから、まあ試験さえ受けさせてくれれば何とかなるのでないか、と思ったわけ。で、職場で実際に仕事を始めた頃から、基礎的な勉学を七年間も積んできたわけですから、ずいぶんラクでした。さて、目指す本社採用は

「たまたま、さらば開かれん」という言葉がありますが、僕はそれを地でやったわけ。だって一生に一回の問題を、与えられた枠組みのみでやり過ごすのは、何とも馬鹿々々しい

「たまたま、さらば開かれん」という言葉がありますが、僕はそれを地でやったわけ。だって一生に一回の問題を、与えられた枠組みのみでやり過ごすのは、何とも馬鹿々々しい

「たまたま、さらば開かれん」という言葉がありますが、僕はそれを地でやったわけ。だって一生に一回の問題を、与えられた枠組みのみでやり過ごすのは、何とも馬鹿々々しい

工友会長野県支部誕生
“御諏訪太鼓”で
発展を祈念!



日本工業大学工友会の長野県支部が、六月四日、第十四番の支部として、目度く発足した。

諏訪湖ホテルでの設立総会には、県内在住のOB三十数名、ならびに同日開かれた後援会長野支部総会の出席者も参加。あの勇壮な御諏訪太鼓での誕生と発展を、祈念された。

なお、初代支部長には、本紙「OBサロン」にもご登場頂いた竹内義明さん(写真上)中野実業高校教諭、二期空が就任された。会友諸氏には強いご支援をお願いしたい。

大川学長が「宮代町町制施行四十周年記念要覧」掲の町長との対談で、今後のは町としても積極的に国際性を具現しなければいけない、と力説している。

に、留学生の全部が当該国の若者たちだ。そして彼らは、みな真面目で国内の学生以上の情熱を傾けて勉学に励んでいる。従って、そんな留学生たちに、日常接しているだけに、どうして偏見が生じるのか、ほんとうに理解に苦しむ。

本学、生涯学習センターの
「免許法認定公開講座」開講

活動を開始した生涯学習センターでは、この夏期休暇を利用、高・中学の先生方を対象とした教育職員の免許法認定に基づく公開講座を開く。周知のように、件の免許法は、平成元年四月に改正。新たに定められた専修免許状を取得するには、一種免許を基本として実務経験六年以上の場合で、大学院レベルの科目を6単位取得することが条件となっている。

近年、当該免許の取得希望者が増えつつあるが、科目等履修生の制度を利用する方法はあったものの、まだ短期間の講座等で取得するシステムは、実現をみていなかった。そこで本学では、集中的に単

位を取得できる夏期休暇に公開講座を企画。左記の要領で実施することになった。

●開講月日 八月三日(木)・八日(火)・八月二十一日(月)・二十五日(金)の各五日間。

●受講資格 ①日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

いま発売の「旅」や「アウトドア」分野の雑誌メディアには、この夏、森林浴を楽しむ数々のスポットが紹介されている。が、本学の天元山荘などは、緑の中で心の時を踏むに格好な環境に恵まれている。そして、山荘を守る写真の遠藤夫妻や愛犬の「ゴンちゃん」も、そんな学生諸君の来山を「心待ち」している。

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師



信システムグループ勤務。

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師

●開講場所 日本工業大学の講座等で取得するシステム一種免許(工業)を有する者。なお、この講座の担当講師